インタビュー
Interview

輝いている人

短歌はとても奥深いもの 日暮れて尚未だ道遠しですね

文学選奨の短歌部門で3度目の入選に輝いた

河西周子さん（秦）

毎年、文学の創作活動の場として皆さんに親しまれている「文学選奨」。昨年の合併で「総社・吉備文学選奨」から「総社市文学選奨」に名称を変更。今回で通算32回目を数える。この短歌部門で3度目の入選に輝いたのが、河西周子さんだ。

受賞の感想を問うと「身に余る光栄です。未熟な私の作品が選ばれるなんて、運が良かっただけですよ」ときまり悪がる。歌は学生のころから好きで、啄木や牧水などの歌集は、いつも手元にあった。しかし、就職、結婚してからは、仕事や家事、育児、介護などに追われ、創作は一時休止。子供が巣立ち、親を看取った約10年前から再開した。

「短歌は感動の文学だと思います。感動を詠むには、いつも神経を尖らせておく必要があります。観察力に磨きがかかれば、これまで見過ごしがちだった自然や風景がいきいきと感じられます。自分と向き合う機会も多くなるから、素直な自分にも出会えるんです」と瞳を輝かせる。「でも、作品を作ることは苦しいこと。ピタリと当てはまる言葉が見つからないときはつらいですね。私は、感性の乏しい凡人ですから自分なりにコツコツやるだけです」と日ごろから歌集を読みあさり、旅先ではペンを片手に感じたことを書きつづる努力家だ。

茶道をたしなみ、法話も聞く河西さんは「お茶は心に安らぎを与えてくれますし、ありがたいお話は胸にしみます」とにっこり。「昔詠んだ短歌を読むと当時のことを思い出します。日記のようですね。これからも、日々の感動を大切にしながら、心にゆとりをもって暮らしていきたいですね」と穏やかにほほえんだ。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。

元旦早朝、抜けるような青空にきびじつるの里から４羽のタンチョウが舞い上がりました

吉備路の大空にはばたけ

タンチョウの野外行動調査

昨年12月５日から今年１月15日にかけて、きびじつるの里から吉備路風土記の丘一帯で国の特別天然記念物・タンチョウの野外行動調査が行われました。年末年始にかけて、吉備路を舞うタンチョウは優雅そのもの。昨春、きびじつるの里で生まれたハナとサンも岡山県自然保護センター（赤磐市）の８羽に加わり参加。集団形勢過程や２か所のねぐらづくりなどの調査が行われました。これは、タンチョウの繁殖に取り組んでいる県自然保護センターが行ったもので、吉備路での調査は11年ぶり。

山頂では夜明け前から大勢の人手でにぎわい、日の出と同時に大きな歓声があがりました

良い年でありますように

元旦福山登山

初日の出を一目見ようと新春の福山に、約1000人が登りました。頂上では、甘酒のふるまい、絵馬やもちの配布がありました。午前７時25分、雲から初日が顔をのぞかせると参加者は係員の音頭で万歳三唱。手を合わせて無病息災を願う人もいました。毎年福山に登る長尾裕香さん（清音三因）は「久しぶりにきれいな初日の出が見られました。この一年が良い年になるといいですね」と笑顔で話してくれました。顔見知りの参加者同士は、新年のあいさつを交わすなど和やかなひと時を過ごしました。

開式の言葉を述べる実行委員たち。ビデオレターなど感動の演出に場内は一体となりました

20歳を祝い決意も新たに

成人記念式

１月９日、新成人による実行委員の企画・運営で成人記念式が市民会館で行われ、新成人665人が出席しました。式では、新成人の代表４人が「ここまで育ててくれた親などに感謝しよう」「権利を主張する前に義務を果すべき」などと二十歳の主張を披露。また、恩師からのビデオレターも寄せられ、出席者は懐かしそうに見入っていました。実行委員の伊丹裕太さん（西阿曽）は「達成感でいっぱい」と満面の笑みで答えてくれました。式典後は、久しぶりに会った級友同士が旧交を温めていました。